

山への想い

山は私の子供の頃の遊び場だった。
祖父に連れられて山に入り、その仕事ぶりを見ているのが好きだった。
その山に久しぶりに足を踏み入れてみると
祖父たちが丹精込めて育ててきた木々が雑草に覆われて荒れ放題である。
「山はお金にならない」と誰も振り向かず、山で働く人たちは山里を離れる。

「祖父はどんな想いで木を育ててきたのか？」と、ふと悲しくなった。
その時だった、木々をすり抜ける風の音と共に
「木を育てることは、森の恩恵に感謝する心・・・」と
先人たちの微かな声が聞こえた。

日本の先人たちは森の恵みに感謝し、その恩恵を絶やさなため
長い時間をかけ、木を大切に育ててきた。
しかし、その木々は今では寂しく山に放置されている。

日本は木の文化であることは誰も疑わない。
立派に育った木がたくさんあるのに、
日本で使われる木材の7割がいまだに輸入されている。
何故？

私は先人たちの想いをポケットにしまい、山を下りた。
“なんとしても、日本の山を守らなければ！！”

— 張 敬 人 —

K S 構法

私達の想いは、日本の木を活用した木構造の開発を行い
日本の山を元気にすることです。

日本人は、豊かな森林資源を背景に木の文化を育んできました。
木を熟知した棟梁たちが木の特性を生かし、知恵と技術で仕口（接合方法）を生み出し、地震にもびくともしない、丈夫で何世代にも使い続けられる建物を創り出してきた。その技術とディテールの美しさは、世界でも類を見ない素晴らしいものです。

K S 構法は、日本の木にこだわり、木材の品質を見極め、「地震などで破壊されにくい仕口の開発」「世代を越えて使い続けられる構造躯体」「木造で大空間を可能にする木造トラスの開発」など、かつての棟梁たちに代わって、木造建築における知恵と技術を進化させていきます。

K S 構法は、日本の木がそこにある限り、木造建築の未来のために歩み続けます。

